

近年におけるキャンベラの都市開発の動向

安田女子大学 野邊政雄

1 目的

オーストラリア連邦の首都キャンベラが首都となる地域として選ばれたのは1908年であるが、実際に首都となったのは、旧国会議事堂が建設された1927年である。ただし、官庁はメルボルンにおかれていた。第2次世界大戦直後の1945年から1973年まで、オーストラリアはロング・ブームと呼ばれる好景気の時代であった。この時代に長きにわたって首相を務めたメンジースがイニシアチブを発揮し、1960年ころからキャンベラの建設を本格的に開始した。連邦政府がキャンベラを直轄し、連邦政府の潤沢な資金を使って、都市開発をおこなった。その結果、居住環境が良好な理想の都市を建設することができた。メンジースは、1960年代と1970年代の前半に官庁をメルボルンからキャンベラに移した。この間に、キャンベラの人口は著しく増加した。1988年に、新国会議事堂が建設された。翌年の1989年に、キャンベラに自治政府であるACT政府ができ、キャンベラは経済的に自立することになった。本報告の目的は、ACT政府が設立された後、都市計画や都市開発がどのように変化したかを考察することである。

2 方法

2017年7月から9月にキャンベラに滞在し、連邦政府の首都庁(National Capital Authority)やACT政府の職員、各地区のコミュニティ・カウンスラー(政府の議員や職員と住民が意見交換をする会)の集会の参加者、住民運動に係わっている住民などに聞き取り調査を実施した。また、都市問題が発生している場所に行き、視察をした。

3 結果

次の5点について、事例を提示する。

- (1) キャンベラの中を走るライトレール(路面電車)の建設
- (2) ACT政府は人造湖(バーリー・グリフィン湖)の湖畔(キングストン)を開発業者に売却し、開発業者はそこにコンドミニアム(高級マンション)を建設した。
- (3) キャンベラの中心部に低所得者用の公営住宅があったが、ACT政府はそれを取り壊し、中心部から離れた遠方に公営住宅を建設し、その住民を移転させた。
- (4) 都市開発がより積極的かつ柔軟におこなわれるようになった。
- (5) キャンベラの中で、年齢構成などで違いが大きくなった。そのために、一部の地域は衰退してしまった。

4 結論

キャンベラの都市開発における変化は、①ACT政府が収益をあげて都市運営をしなければならなくなったこと、および、②住民が年齢や家族状況でより多様になってきたことによって生じたと解釈できる。